70 期リレーエッセイ

人とのつながり

会員　藤間 崇史

1　はじめに

事務所の夏季休暇を利用して修習先の鹿児島でお世話になった方々にご挨拶をしに帰ってきた。

鹿児島では，修習先の弁護士の方，不動産屋さん，居酒屋のお姉さん，酒造会社さんなど。

一年ぶりの再訪にもかかわらず皆温かく歓待してくださった。修習の一年間は初の独り暮らしを多くの方に支えてもらった。

そんな温かい街鹿児島はトンカツの聖地である。私の一番好きなとんかつのお店は天文館にある「黒福多」というお店である。紙面の都合があるため鹿児島を訪問する予定のある会員は是非事務所まで連絡されたい。本稿はそんな鹿児島の昼下がりに桜島を眺めながら記した弁護士一年目の半分の回想録である。

2　所属事務所でのつながり

私は元々ボスが大学で教鞭をとられていた時のゼミ生である。大学に入学して初めて関わった憧れの弁護士がボスであり，そのまま採用に至った。ありがたいつながりである。

事務所では交通事故（損保）や不動産等の資産管理や医療事件（病院側）が多い。その他にも身分関係や相続関係事件も経験させていただいている。

事務所では７年ぶりの新人採用ということもあってかボスをはじめ兄弁，姉弁らも皆優しく指導してくださる。指摘を受ける事項はぐうの音もでないことばかりで毎日反省をしている。

このように１年目は幸運続きで周囲の方々が優しくしてくださることから，新人弁護士としては，仕事に関して経験や知識が足りないことはあっても，手を抜いたり考えることを止めたりしないようにしようと肝に銘じている。

3　事件でのつながり

多数の地主さんと会社との不動産の売却について地主さん側の代理人についた事案があった。相手方の会社は監督省庁との関係で事業許可が下りるか否かが不確定であることを理由に地主さんに売買代金の入金がないまま２年が経過していた。当初，契約解除をするだけの事案であったが，先方から何とか事業を開始したいという申し出があり行政や他の会社を巻き込んだ事件へと発展していった。この関係者の中で弁護士は私だけで，通達や関係法令を調査したり，様々な手続きの期限や関係者の機嫌と格闘し，神経をすり減らしもしたが，別件でお世話になった省庁の方や関係各所のご助力もあり，方針を決めて２ヶ月程度で無事に事業許可も出て決済も終了することができた。

終了した際，相手方の社長から「もう先生に会えなくなるのは寂しいですね。また別の事件があったら是非お願いいたします」と言われたときにはびっくりした。

相手方に感謝されるとは思っていなかったし，ましてや事件の紹介を考えていただけていたとは思っていなかった。

4　むすびに

私の弁護士人生は「人とのつながり」によってできている。最近では会派活動を通じて，昼夜問わず弁護士とは何かを教えてくださったり，運動会実行委員会に入れていただき活動の場を与えてくださる先輩弁護士の方々とも出会えた。

私は，こうして自分とつながっていたいと少しでも思ってくださる方々を大切にできる弁護士になりたい。

もちろん，このエッセイを斡旋してくれた同期の清水航会員のことも大切にしたいので食事に誘おうと考えている。